

3年2組 国語科学習指導案

場 所 3年2組教室

授業者 本田 幸大

- 1 単元・教材名 場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう
「ちいちゃんのかげおくり」

2 指導の立場

(1) 教材観

本作品は三年生の児童が初めて出会う戦争文学である。「かげおくり」という遊びを題材にして、戦争の悲惨さや平和を願う作者の思いがこぼれた作品である。本文は以下の5つの場面によって構成されている。

家族そろって仲良くかげおくりをする、幸せなちいちゃん
激しい空襲のため、母と兄からはぐれ、ひとりぼっちになるちいちゃん
母と兄の帰りを信じて、ひたすら待ち続けるちいちゃん
衰弱し、夢うつつの中で、たった一人でかげおくりをするちいちゃん
ちいちゃんが亡くなった何十年後、公園で幸せそうに遊ぶ子どもたち

特に の「それから何十年」かたった町の様子は、現代に生きる我々に平和の大切さと、それを守ることの尊さを伝えている。しかし、場面の様子を想像しながら読み進めるとき、当時の時代背景を正確に理解することは難しいと思われる。だが、主人公が自分と同じ子どもであるので、ちいちゃんに感情移入しやすい。児童が自分たちの生活とは遠くかけ離れた過去の出来事である「戦争」や、当たり前と思っている家族との生活、命、未来などの「平和」を、主人公の「ちいちゃん」の目を通して見つめ、決して過去だけのお話としてではない、自分たちの命、未来までも奪ってしまう戦争の非人間性と平和の尊さを子どもなりに認識できる教材である。

(2) 児童の実態

本単元では、読むことウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」の力をつけたい。そのために、場面ごとにどんな出来事があったのか、場面をつなげて何が変わったのか、それをもとにそれぞれの場面で心がうたれた場所を見つけ、まとめの文を書かせたい。

【3年「もうすぐ雨に」での児童の読む力の実態 7.14 実施】

この単元の終末に、主人公は最初と最後とを比べて、どう成長したのか(変化)と、その理由(他の場面をつなげる)を感想文に書かせた。すると、以下の表のようになった。

どう成長したかを書いた。	どう成長したかを書けなかった。
18名 (6月より+1名)	0名

成長した理由を書いた。	成長した理由を書けなかった。
18名 (6月より+8名)	0名

成長した理由を理由を1つの場面だけで説明した。	2つの場面をつなげて説明した。	3つの場面をつなげて説明した。	4つの場面をつなげて説明した。	5つの場面をつなげて説明した。	全ての場面をつなげて説明した。
1名	4名	2名	2名	4名	5名

これらの表から、児童は主人公の気持ちや様子、その変化を読み取り、まとめることができるということが分かった。しかし、場面をつなげて考える力やその間に起こった出来事をつなげて、根拠を明確にしながらかえる力はまだまだ弱く、児童によって大きな差があることが分かった。

(3) 指導観

【研究内容1】に関わって

第三次に「ちいちゃんに自分の考えたことが伝わるような手紙を書いて、交流する」という言語活動を位置付け、単元を貫く5つの言語意識を次のように設定する。

相手意識・・・・・・・・学級の仲間に

目的意識・・・・・・・・この作品や戦争に対して自分が感じたことを相手に伝えるために

場面・状況意識・・・・・・・・お手紙交流会で

方法意識・・・・・・・・ちいちゃんへの手紙を読み合う

評価意識・・・・・・・・登場人物の気持ちや場面の様子とその変化を想像して感じたことを詳しく書いている

毎時間の終末に、それぞれの場面で心に残ったことや読み取ったことを中心にまとめ、書きためていく。それをもとに、まとまった手紙を書き上げる。最後に感想文を書くと言うと、苦手意識をもつ児童も多いが、手紙を書くことで、抵抗なく意欲的に取り組めるのではないかと考える。また、初発の感想と最後の手紙を読み比べることで、自分の考えが深まったことを実感させたい。

【研究内容2】に関わって

一人読みでは、会話、表現の工夫（繰り返し・対比・複合語・ダッシュなど）、行動描写、情景描写に着目させ、場面の移り変わりや登場人物の様子を読み取る。読み取りの視点を毎時間提示することによって、どこに着目すればよいか分かりやすくなると考える。また、この作品に用いられている挿絵は白黒で描かれており、場面の様子を想像するのに効果的であるので、挿絵も読みの手がかりとして使用していきたい。

児童の実態により、本文をノートに写していると、自分の読み取ったことを書く時間が確保できないため、本文が上段、自分の考えを下段に書くワークシートを用いる。また、ワークシートにあるまとめもいつも同じ行数ではなく、その時に必要な行数に変えることで、児童のまとめる力を高めたい。

机間指導では、教師があらかじめ本時において大切な言葉や表現を名簿に書いておき、そこに着目している児童を把握し、意図的な指名に生かす。

【研究内容3】に関わって

交流前段において、ネームプレートを活用し、どの児童の考えも板書に位置付け、友達の意見と関わらせながら発言ができるようにする。また、ハンドサインや言葉に呼応していくために、「～さんにつけたしで」「～さんとはちがって」などの話形も大切にしていく。また、教室の前に一場面のかげおくりとの比較ができるように、振り返る手がかりとなる掲示をしたり、側面にも場面のつながりを意識した学習の足跡を掲示したりして、場面をつなげて発言しやすい環境を作る。

交流後段において、深めの発問として、「ちいちゃんは本当にこれでよかったのだろうか。」と問い、ちいちゃんを目線で読んだときと、客観的にちいちゃんの様子を見たときとは感じ方に違いがあることに気づかせ、戦争によって命をなくしてしまったちいちゃんの悲惨さを読み取る。

3 単元の目標

場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。 【読(1)ウ】

手紙の内容や書き方を比較し、感じ方や考え方のちがいについて意見を伝え合うことができる。

【読(1)オ】

4 単元指導計画（全11時間計画）

過程	時	主な学習活動（課題・着目する語句・深めの発問）	単元を貫く 課題/言語活動	評価規準【観点】
一 次	1	「ちいちゃんのかげおくり」を読み、はじめの感想をもとよう。 ・戦争について知っていることを発表する。 ・「戦争の様子」「ちいちゃんの気持ち」の2つを感想の視点として示す。 ・難語句や新出漢字を確認する。	場面 の つ な が り に 注 意 し な が ら 読 み、 戦 争 に つ い て 考 え よ う。 ち い ち ゃ ん に 自 分 の 考 え た こ と が 伝 わ る よ う な 手 紙 を 書 い て、 交 流 す る。	物語の世界に興味をもち、初発の感想を書いている。【関・意・態】
	2	はじめの感想を交流し、学習計画を立てよう。 ・時や場所、登場人物を挿絵を基に確認する。 ・感想をもとにして、学習課題を考える。		感想を交流し学習課題を考えようとしている。【関・意・態】
二 次	3	ちいちゃんが経験した戦争中の様子を読み取る。 ・第一場面～第三場面までを読み、戦争中の様子が分かる表現に着目し、ちいちゃんの経験した戦争について読み取る。 着目： 白いたすき しょういだんやばくだん くうしゅうけいほうのサイレン ほのおのうず ひとりぼっち こわれかかったぼつくうごう 深め：「戦争」はちいちゃんから何をうばっていったのだろう。		本文の言葉（白いたすき、しょういだんやばくだん、くうしゅうけいほうのサイレンなど）から、ちいちゃんが経験した戦争をとらえることを通して、戦争中の様子を知り、戦争の悲惨さを読み取っている。【読(1)ウ】
	4	家族そろってかけおくりするちいちゃんの様子を読み取る。 ・「空」の様子を表す表現や、家族の会話文などに着目して、第一場面を読み取る。 着目： 青い空 四人は手をつなぎました。 「すごうい。」 「今日の記念写真だなあ。」 深め：ちいちゃんにとって、空はどんなところになったのだろう。		楽しそうにかけおくりをする家族の様子を、青い空、四人は手をつなぎました、などの表現から読み取ることを通して、ちいちゃんの家族への思いに気づき、楽しくかけおくりをしているちいちゃんの気持ちを読み取っている。【読(1)ウ】
	5	空襲で母と兄からはぐれ、ひとりぼっちになるちいちゃんの様子を読み取ろう。 ・空襲によって家族と離ればなれになったちいちゃんの様子を、繰り返しの表現に着目して、第二場面を読み取る。 着目：「お母ちゃん、お母ちゃん。」「お母ちゃん。」 ひとりぼっち 深め：ちいちゃんはどんなことを考えながらひとりぼっちでねむったのだろう。		空襲から逃げるちいちゃんの様子を、青い空、空襲の様子やちいちゃんが繰り返す言葉（お母ちゃん）から読み取ることを通して、ひとりぼっちになったちいちゃんのさみしさに気づき、家族に会いたいと心の底から思っているちいちゃんの気持ちを読み取っている。【読(1)ウ】
	6	母と兄の帰りを信じて、待ち続けるちいちゃんの様子を読み取る。 ・第三場面のひとりぼっちで家族の帰りを待つちいちゃんの様子を、第二場面とつなげながら読み取る。 着目：「うなずきました。」「深くうなずきました。」 深め：深くうなずいたちいちゃんはどんなことを考えていただろう。		ひとりぼっちで家族を待つちいちゃんの様子を繰り返しの表現（うなずきました）や会話から読み取ることを通して、家族を追い求めるちいちゃんの気持ちに気づき、家族とまた会えると信じているちいちゃんの思いを読み取っている。【読(1)ウ】
	7 (本時)	たった一人でかけおくりをするちいちゃんの様子を読み取る。 ・第四場面のかげおくりと第一場面のかげおくりの様子と比べながら、ふらふらする足をふみしめて立ち上がって、必死にかけおくりをしたちいちゃんの様子を読み取る。 着目：ふらふらする足をふみしめて たった一つのかげぼうし 体がすうっとすきとおって きらきらわらいだしました。 深め：家族に会えたちいちゃんは本当によかったのだろうか。		一場面のかげおくりと四場面のかげおくりを比べて読むことを通して、家族を求めて一人で死んでいったちいちゃんのと戦争による死の悲しみに気づき、戦争の悲惨さを読み取っている。【読(1)ウ】
8	ちいちゃんがなくなった後の様子を読み取る。 ・小さな女の子の命を、なぜちいちゃんの命がにじなかったのか考える。 ・第四場面の「ちいちゃんはきらきら笑いだしました。」と今日の子どもの「きらきら」を比較して考える。 着目：きらきら 青い空の下 深め：今の公園の様子を見たちいちゃんはどう思っただろうか。	第四場面のちいちゃんの「きらきら」と第五場面の今日の子どもの「きらきら」を比較して違いを読み取り、平和への願いを読み取っている。【読(1)ウ】		
三 次	9 10	ちいちゃんへの手紙を書こう。 ・手紙の書き方（はじめ・中・終わり）を知る。 ・これまでに書きためてきたまとめをもとに、手紙を書く。		一番心を打たれたところを中心に、自分の伝えたいことを書いている。 はじめ・中・終わりの段落構成で手紙を書いている。【書(1)イ】
	11	お手紙交流会をして、友だちの考えと自分の考えをくらべよう。 ・グループで読み合い、感想を伝え合う。 ・よかったことや自分と同じところ、違うところをメッセージカードに書く。		手紙の内容や書き方を自分の意見と比較し、自分の意見を伝えている。【読(1)オ】

5 本時のねらい

一場面のかげおくりと四場面のかげおくりを比べて読むことを通して、家族を求めて一人で死んでいったちいちゃんの気持ちと戦争による死の悲しみに気づき、戦争の悲惨さを読み取ることができる。【読(1)ウ】

6 本時の展開(7/11)

* 人権教育の観点

	学 習 活 動	指導・支援 見届けの視点
導入	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ちいちゃんは、お母さんとお兄ちゃんが帰ってくることを信じて、ひとりぼっちで防空壕の中で待っている。 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たった一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を読み取るう。</p>	<p>学習の足跡を活用しながら、振り返りを発表するように助言する。</p> <p>「やったこと」「ちいちゃんの様子」「比べて」の3つの読み取りの視点を示す。</p>
個人追究 / 交流前段	<p>3 一人読みをして、全体交流をする。</p> <p>「暑いような寒いような」</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の調子が悪い。 「ひどくのどがかわいています」 飲み物もない。 「ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」 今にも倒れそう。 ちいちゃんは体調が悪く危険な状態だが、家族との幸せな思い出であるかげおくりをしたい。 「たった一つのかげぼうし」 一場面では、四人で手をつないでやっていたのに、四場面では一人ぼっち。 お父さん、お母さん、お兄ちゃんは、死んでしまっている。だから、本当に一緒にかげおくりができたわけではない。 「体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていく」 ちいちゃんの命が消える。 「きらきらわらいだしました」「走り出す」 会いたかった家族に会えて本当にうれしい。 今すぐにも会いたい。 	<p>本時において大切な言葉や表現を名簿に書いておき、そこに着目している児童を把握し、意図的な指名に生かす。</p> <p>支援が必要な児童には、読みの視点を確認しながら、着目するとよい表現を指定して取り組ませる。</p> <p>* 言葉を手がかりにちいちゃんの気持ちを豊かに想像する力を育てる。(自己啓発力)</p> <p>ネームプレートを活用して友達の意見と関わらせながら、発言できるようにする。</p> <p>どの言葉から考えたのか、根拠を明確にして話すように声をかける。</p> <p>学習状況の見届け</p> <p>言葉や表現に着目して考えたり、前の場面とつなげて考えたりしているか。</p> <p>○読み取った内容ごとに板書にまとめ整理する。</p>
交流後段	<p>4 深めの発問をし、ちいちゃんの様子や心情について読みを深める。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ちいちゃんは、本当にこれでよかったのだろうか。</p> <p>よかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ずっと会いたかった家族に会えたから。 ちいちゃんもきらきらわっているから。 <p>よくない</p> <ul style="list-style-type: none"> ちいちゃんは死んでしまったから。 生きて会うことができていないから。 死んでしまったらもう何もできないから。 <p>→ 戦争によって命が奪われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争によって、家族と生活、命、未来など様々な物が奪われた。 	<p>「ちいちゃんは家族に会えてよかった」というちいちゃんの見線からの読みを、客観視した場合の見線にする。</p> <p>補助発問</p> <p>○「一場面の時のかげおくりと四場面の時のかげおくりでは、ちいちゃんにとってどちらがよかっただろうか。」</p> <p>命を含め、戦争によって様々な物が失われていることに気づかせる。</p>
まとめる	<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">たった一人でかげおくりをしているちいちゃんは、家族に会いたい気持ちでいっぱいだったけど、死んでしまってかわいそうだと思いました。だから、ちいちゃんの命や、未来を奪ってしまう戦争はとてもひどいと思いました。</p>	<p>【評価規準】</p> <p>一場面のかげおくりと四場面のかげおくりに着目して、ちいちゃんの様子や気持ちを話し合う活動を通して、家族を求めて一人で死んでいった気持ちと戦争による死の悲しみに気づき、戦争の悲惨さを読み取っている。</p> <p style="text-align: right;">【読(1)ウ】</p>